

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ①「主体的に学習する習慣を身に付けさせる学習環境づくり」
- ②「言語活動の充実による思考力・判断力・表現力の育成」

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 委員
 藪下 和仁 校長:永尾修一 教頭:兼松佳史
 教務主任:研修主任:藤岡由美子 3学年主任:福田 恵
 2学年主任:粟飯原恵子 1学年主任:川西まゆみ

校長

永尾 修一



◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○「前進タイム」の課題に真面目な取組がみられ、学習内容を分かるようになりたいという意欲のある生徒が多い。 ●学力差が大きく、基礎・基本が定着していない生徒がいる。	①基礎的・基本的な知識や技能を確実に身に付けることができる。 ②新たに身に付けた知識や技術を、既習の内容と関連づけ、他の学習の場面にも活用することができる。	①「前進タイム」で、漢トレ・数トレ・単トレの反復練習を継続的に実施するとともに、個別指導の場を設定する。 ②「前進タイム」の読書時間の充実や、図書室の利用を推進する。 ③「貞中スタンダード」を確立し、授業冒頭で授業の見通しを示すことや、授業終末で振り返りの時間を設定することで本時の学習の流れを明確にする。	確認テストの結果をもとに、個別に丁寧な指導を継続し、基礎・基本の定着を図るべく、当初の目的を全職員で再確認する。	①漢トレ、数トレ、単トレを継続的に実施することができた。確認テストで基準に満たない生徒については、追試などを行うことで個別指導を行った。 ②「前進タイム」で、あわっこタイムズを活用することができた。図書室前に本を紹介する掲示物を充実させることができた。 ③授業での学習目標の明示や、振り返りを行うことが概ね達成できた。	「前進タイム」の取組を今後も継続して、取り組む。確認テストで基準に満たなかった生徒への個別指導や再試などの手立てを確立する。また、学習プリントやテストの作成、採点、追試の役割分担などについても、全教員で業務を分担し、効率的で持続可能な取組の仕組みを考える。

【各校の取組状況の把握について】

研究授業や授業の相互参観，アンケートなど，様々な機会を捉え，取組状況の把握を行う。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○グループでの話し合い活動に意欲的に取り組める生徒が多い。 ●自分の考えを、人前で根拠を示しながら筋道立てて説明することが苦手な生徒が多い。	①人の話をよく聞き、様々な考えや意見を比較したり、自分の考えや意見と照らし合わせたりすることで自身の考えを表現することができる。 ②話し合い活動を通して、課題解決を図るための見通しを立てることができる。	①話し合い活動の中で、根拠や理由を明確にして自身の考えを表現できる場を積極的に設定する。 ②相互授業参観の機会を設け、各自が積極的に授業改善を行う。	根拠や理由を明らかにしながら、自分の考えを表現することができるよう、当初の目的を全職員で再確認し、取組を継続する。	①コロナ禍のため、グループ活動の場が減ったが、ワークシートなどの活用によって自分の考えをまとめさせる活動ができた。 ②相互授業参観を実施することで、教員の授業改善や、授業力の向上につなげることができた。	R80や思考ツールを活用した授業づくりを意識し、生徒の思考力・判断力・表現力等の育成を全教員で目指す。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○授業中、積極的に発表する生徒が多い。また、家庭学習用の自習プリントに自ら取り組む生徒も一定数みられる。 ●家庭学習の習慣が身に付いていない生徒や、学習時間が十分に確保できていない生徒がいる。	①自分に合った学習目標を立て、課題や自主学習に継続して根気強く取り組むことができる。 ②各教科の学習に対して、主体的に取り組むことができる。	①「学習プランを立てよう」などで、自身の家庭学習についての振り返りをしたり、生徒が成長を実感したりできる場を設定する。 ②「学習の手引き」を全校生徒に配布・説明をし、年間を通して、有効活用させる。 ③自主勉強ノートの学習の様子を全校生徒に広報し、状況の確認と称賛を毎月行う。	家庭学習が十分にできていない生徒がいるので、家庭での過ごし方や自主学習の仕方などについて、継続して指導していく。	①「学習プランを立てよう」を記入する場面などで、生徒の家庭学習の時間や内容について振り返らせることができた。 ②「学習の手引き」を作成し、配布・説明ができたが、年間を通じての有効活用には至っていない。 ③ 自主勉強ノートを活用した家庭学習について、学級や校内で状況確認や賞賛等を行うことができた。	家庭学習が十分にできていない生徒がいるので、家庭での過ごし方や、自主学習の仕方について継続して指導をする。また、「学習の手引き」の有効活用について各教科担当で協議し、実効性のあるものに改善する。

令和3年度 学力向上ロードマップ

